

知床岬トレッキング中のヒグマ被害の発生について（詳報）

平成 21 年 10 月 26 日(月)
環境省、北海道、羅臼町、(財)知床財団

(問合せ先)
環境省釧路自然環境事務所(担当：則久)
0154-32-7500(TEL)、32-7575(FAX)
(財)知床財団(羅臼地区担当次長 田澤)
0153-87-2828(TEL)、87-2826(FAX)

9 月 25 日午前、羅臼側海岸の念仏岩において、知床岬へトレッキング中の人が、野外に残置していた食料をヒグマに奪われる事案の発生については、9 月 28 日付けプレスリリースで速報したところですが、その後、詳細な事実確認を行うとともに、類似の事案が 7 月にも発生していた可能性が高いことが確認されましたので、改めて事実関係を整理の上、お知らせいたします。

いずれのケースも、フードコンテナ等を用いず、食料を残置していたために、食料を野生動物（ヒグマ等）に奪われたケースです。ヒグマが人間から強引に食料を奪ったり、設置しているテントを荒らしたりしたものではなく、人的被害もありませんでしたが、今後、同地区周辺において、ヒグマが食料に味をしめてトレッキング利用者らの荷物に執着する可能性があります。少なくとも、今年度中の知床岬方面へのトレッキング利用の自粛等を引き続き要請します。

1. 事実関係

(1) 9 月 25 日の事案

日時：9 月 25 日午前

場所：念仏岩洞窟内

概要：

9 月 24 日から 26 日にかけて 2 泊 3 日で羅臼町相泊～知床岬の往復トレッキングをしていた利用者（単独行 2 組 2 名）が、25 日午前、幕営した念仏岩に食料やたたんだテントを残して知床岬を往復していたところ、その間に、幕営地に残した食料等がヒグマに荒らされた。事案発生時刻は 6:30 から 12:30 の間と推定される。荷物のまわりにヒグマの足跡が多数残されている他、ヒグマと思われる犬歯の跡が食料の袋等に残されており、ヒグマにより荒らされたことが確実と判断される。

今回のケースは、設営していた(張っていた)テント内の食料が奪われたものではなく、フードコンテナに入れずに無人のまま野外に残置(デポ)されていた食料がヒグマに荒らされ、その際、たたんで周辺に置いてあったテントも破られる等の被害にあったもの。一方、フードコンテナに入れてあった食料について被害はなく、ヒグマが開けようとした痕跡等もなかった。

被害状況

① A氏

たたんだテントや食料をひとまとめにして洞窟の奥に残置して知床岬に出発。食料は他の荷物と共にビニール袋に入れていた。残置した食料は、レトルトカレー、レトルト米、ネギ、味噌、コーンスープの素（粉）、パン、鮭缶詰、醤油。

洞窟に戻った際に確認した、クマによるものと思われる痕跡は下記のとおり

- 味噌のビニール袋（袋の端に犬歯の跡があったが中身は食べられていない）
- コーンスープの小袋3つ（1袋はちぎれており中身は食べていないようだが散乱）
- テント袋、シュラフ袋（犬歯の跡）
- 鍋とガスストーブを入れていたビニール袋（ちぎれていた）
- 食料を入れていたビニール袋（ちぎれていた）
- 沢登り用足袋を入れていたビニール袋（ちぎれていた）

一方、クマによる痕跡のなかった荷物は下記のとおり（ただし、いずれも入れていたビニール袋からは出されている）

- レトルトカレー
- レトルト米
- パン
- ネギ
- 鮭缶詰
- 醤油
- 鍋とスプーン、
- 沢登り用足袋
- ガスストーブとライター

荷物の周りの砂地には、クマの足跡が多数認められた。

散乱したコーンスープは、現地で焼却処分している。

② B氏

残置した食料はすべてルサフィールドハウスでレンタルしたフードコンテナに収容していた。フードコンテナ周辺にはクマの足跡は認められず、コンテナを移動されるなど開けようとした形跡も無かった。

テント内には食料はなかった。シュラフ、マット、コッヘル（お湯を沸かす以外の用途には使っていない）などを入れて、テントを接地面につぶした状態（ポールを抜いた状態）で知床岬へ出発。戻ってきた際には、テントが破られて、中に入れてあったシュラフがすこし引き出されていた。テントの破損は3カ所。2カ所は15cm四方が破られ、1カ所は爪をかけてあいたような穴。テントの周りにクマの足跡多数あり、テントやシュラフは濡れていた。ゴミやガソリン、石鹼などクマを誘引しそうなものは入れてなかった。

備考：

25日は2名とも幕営地を別の場所に移動し、2名分の食料をフードコンテナに保管。

(2) 7月21・22日の事案

日時：7月21日夜、22日夜

場所：念仏岩洞窟内

概要：

7月21日から23日にかけて2泊3日で羅臼町相泊から知床岬の往復トレッキングをしていた利用者（1組2名）は、21日夜、念仏岩に幕営した。その際、テントから離れた野外に食料を置いて就寝したところ、翌22日朝、食料が動物に荒らされているのを発見した。

利用者は、22日は終日全ての食料を持って知床岬を往復し、再び念仏岩で幕営。前日同様、野外に食料を置いて就寝したところ、翌23日朝、再び食料が動物に荒らされているのを発見した。

周辺に足跡等はないが、状況から1日目の食料を荒らしたのはヒグマだった可能性がある。

被害状況

フードコンテナは使用せず。

21日夜は、テントから約100メートル離れた岩の隙間に、食料を入れたビニール袋をつっこみ、さらにそれが動物に取られないよう、大きな石（5～10kg）を手前に置いていた。翌朝確認すると、大きな石が動かされ食料が荒らされていた（岩の隙間の奥の方に入れた食料は無事だった）。本人たちは、キツネには動かせないような大きな石であったため、ヒグマによるものではないかと推測している。

22日夜は、前日同様、岩の隙間に食料を入れたビニール袋を入れた。今度は、岩の隙間に中型の石を石組みのように積んで岩の隙間をふさいでいたが、翌朝確認すると、石組みの一部が壊され、そこから引っ張り出されるような感じで食料が荒らされていた。また、周辺には、強い獣臭が漂っていた。これらのことから、2日目の被害については、本人たちは、キツネによるものと推測している。

野生動物に荒らされた食料は以下のとおり。

- アルファ米（袋が破れ散らばっていた。食べたというよりも散らばった感じ）
- フリーズドライのスープの素（食べたような感じあり）
- パン、ビスケット（食べたような感じあり）
- キャラメルなど甘いお菓子（食べたような感じあり）

※事前に環境省ホームページを見るなどしていろいろ情報収集は行われていたが、フードコンテナは重そうだったため、匂いの出にくい食料を選択する代わりに、フードコンテナの携行はしなかったとのこと。

2 今後の対応について

今回の2件の事案については、いずれもフードコンテナを用いず、食料を残置していたために、食料を野生動物（ヒグマ等）に奪われたケースです。ヒグマが、人間から強引に食料を奪ったり、設置しているテントを荒らしたりしたものではなく、人的被害もありませんが、今後、十分な注意が必要です。

知床岬を含む知床半島先端部地区の利用にあたっては、平成20年1月、「**知床半島先端部地区利用の心得**」（以下、「**心得**」という。）を策定し、ヒグマを含むリスクの軽減に関する取組を利用者に求めてきていました。知床半島先端部地域の利用はあくまでも自己責任による利用が原則であり、この心得を遵守すれば安全が保証されるというものでは決してありません。しかし、食料の適切な保管は、トレッキング中の自己の安全性の

向上だけでなく、ヒグマの習性を攪乱させないことにより、他の利用者に対するリスクを高めないという観点においても必要な対策となります。今回の事案の要因は、この「心得」の中で強く求めていたフードコンテナによる食料の保管が徹底されていなかったものであり、来シーズン以降は、フードコンテナの携行の徹底を利用者に求めていくことといたします。

なお、当分の間は、ヒグマが食料に味をしめてトレッキング利用者らのテント等に執着する可能性があります。また特に、サケマス類の遡上する秋期は、海岸部や河口近くでのヒグマとの接触の機会が増大します。これらのことを踏まえ、今シーズン中については、知床岬方面へのトレッキング利用・シーカヤック利用を計画されている皆様に対して、羅臼町側海岸でのテント幕営を避け、利用を自粛されるよう強く要請します。

3 情報の入手先

知床岬等知床半島先端部地域の利用にあたって必要な情報は、以下の施設で得ることができます。利用に先立って、必ず、お立ち寄りください。

(1) 知床世界自然遺産ルサフィールドハウス <http://shiretoko-whc.jp/rfh/>

開館時間(夏期) 5～10月 9:00～17:00 毎週火曜日休館

(冬季) 2～4月 10:00～16:00 毎週火曜日休館

(閉館) 11～1月

0153-89-2722 北海道目梨郡羅臼町北浜8番地

(2) 羅臼ビジターセンター <http://rausu-vc.jp/>

開館時間(夏期) 5～10月 9:00～17:00 毎週月曜日休館

(冬季) 11～4月 10:00～16:00 毎週月曜日及び年末年始休館

0153-87-2828 北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町6-27

(3) 知床自然センター <http://www.shiretoko.or.jp/>

開館時間(夏期) 4/20～10/20 8:00～17:40 休館日なし

(冬季) 10/21～4/19 9:00～16:00 12/31のみ休館

0152-24-2114 北海道斜里郡斜里町岩宇別

また、「知床半島先端部地区利用の心得」については、知床のデータベースサイトである「知床データセンター」のホームページからダウンロードできます。

<http://dc.shiretoko-whc.com/management/rule.html>

(別紙1) 被害状況の写真

(別紙2) ヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項

(別紙3) 知床半島先端部地区利用の心得について

被害状況の写真



ヒグマに破られたテントの状況

このテントは、ポールを畳んだ状態で置かれていたが、ヒグマが数カ所をツメで破っている。
※写真は、損傷状況がわかるよう、テントを設営して撮影している。



ヒグマの食べ残し



現場に残されたヒグマの足跡

ヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項

利用者が知床半島先端部地区(知床岬方面)に立ち入る際にヒグマによるリスクの軽減等の観点から留意すべき事項や禁止事項は、次のとおりです。

〔知床半島先端部地区(知床岬方面)利用にあたってヒグマ対策に関する事項〕(「心得」より抜粋、一部加筆修正)

- (1) 事前にルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターに立ち寄り、ヒグマによるリスクの軽減に関する最新の情報を入手し、十分な理解・学習を行うとともに、これらに対処する技術の習得に努めること。
- (2) 野営の際には、ヒグマに関わる事故を避けるため、テント場、調理・食事の場所及び食料保管場所をそれぞれ十分に(100メートル以上)離して設け、テント内に食料を持ち込むことは厳に避け、ヒグマが直接テントに誘引されないようにすること。
- (3) 就寝時は食料やゴミをヒグマに取られないよう「ヒグマ対策用携帯食料保管容器(フードコンテナ)※」の中に厳重に保管し、テントから離れた保管場所におくようにすること。
※フードコンテナ無しに、テント外に食料などを置くと、ヒグマやキツネなど野生動物に容易に荒らされてしまい、人間の食料の味を覚えさせてしまうことになるのでフードコンテナの携行は必須です。
※フードコンテナは、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターで貸し出しが可能です。
- (4) テント周辺は「携帯式電気柵※」で囲うことを推奨する。
※乾電池を電源とする持ち運び可能な簡易電気柵も販売されていますので、携行されることをお勧めします。
- (5) クマスプレー※、鈴等リスクの軽減、事故防止のための装備を備えること。
※クマスプレーは、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター、知床自然センターで貸し出しが可能です。
- (6) 臭いが強い食料や持ち物はヒグマを誘引し、危険である。食料や持ち物はできるだけ臭いが発生しないものを選定すること。
- (7) エゾシカや漂着した海獣類等の動物の死体があった場合、ヒグマが餌付いている場合があり、餌を守ろうとするヒグマから激しい攻撃を受ける可能性があるため、不用意に近づかず、すみやかに離れること。
- (8) ヒグマと至近距離で不意に出会うことが事故の原因となることから、特に見通しの悪い植生地や場所では声を出す等あらかじめ人の存在を伝えること。
- (9) 常に周囲に気を配り、注意を払うこと。(特にサケマス遡上時期の河川等はヒグマが集まりやすい。)

※サケマスが遡上している時期、サケマスが遡上する川だけでなく、わずかに真水が海に流れ込んでいるような場所にも魚が波打ち際に集まり、それらを狙っ

てヒグマが出没しています。このような場所の近くでは、テント幕営しないようにしてください。

(10) 夜間や薄明薄暮、濃霧の時等視界が効かない時には、突発的な遭遇が起りやすいので、なるべく行動しないようにすること。

(11) ヒグマに対して絶対に餌を与えないこと。

(12) 進行方向にヒグマを目撃した場合は、ヒグマを刺激しないように引き返す等適切に行動すること。

(13) 食料やゴミを取られたり、人や食料に意図的に近づく個体を確認された場合は、速やかに引き返すこと。(取られたものは取り返さないこと。)

(14) 食料やゴミなどヒグマを誘引する物を含む荷物を途中に一時置いて行動すること(いわゆるデポ)は絶対に行わないこと。

(15) 食料やゴミを取られたり、人や食料に対して意図的に近づく個体を確認された場合、あるいは追跡を受けたり、事故が発生した際には、他の「利用者」のリスクの軽減のため、ルサフィールドハウス、羅臼ビジターセンター又は知床自然センターのいずれかに速やかに通報すること。

※人に接近してくるヒグマと遭遇したり、荷物を野生動物に荒らされたりした際には必ず、帰路、これらの施設に立ちよって情報を提供してください。次の利用者のリスクの軽減のために重要な情報となります。このほか、環境省自然保護官事務所、羅臼町役場などでも情報を受け付けています。

※フードコンテナ及びクマスプレーについては、知床財団ホームページ参照のこと。

(http://www.shiretoko.or.jp/bear/bear_10.htm)

知床半島先端部地区利用の心得について

知床半島先端部地区は、極めて原始性の高い自然景観と豊かな野生生物によって形成される多様な生態系を有する地域であり、人類共通の財産として持続的な保全を図り、より良い形で後世に引き継いでいく必要がある地域です。

また、先端部地区は歩道や車道など一般の公園利用のための施設が設けられていないほか、知床森林生態系保護地域として「自然の推移に委ねる」地域とされているなど、制度上一般の利用者による積極的な利用は想定されていない地域です。

先端部地区に立ち入ろうとする利用者は、刻々と変化する海況や風況、低い海水温や高密度なヒグマの生息など、過酷な自然条件に自らの力だけで対処できる極めて高度な技術と体力及び判断力が求められ、全ての行動に自己の判断が要求され、その結果は全て自己の責任に委ねられることを十分に自覚することが求められます。

「知床半島先端部地区利用の心得」は、先端部地区の利用に関し、自然保護やリスク（危険性）の軽減の観点から留意すべき事項や禁止事項を定め、それを守っていただくことにより、先端部地区の風致景観と生態系を持続的に保全するため、知床国立公園利用適正化検討会議により合議され、平成 20 年 1 月に定められました。

